

第6回神戸国際消化器内視鏡ハンズオンセミナー 実施報告書

【開催期間】	2017年6月23日（金）～6月25日（日）		
【開催場所】	神戸医療機器開発センター（MEDDEC）、神戸ポートピアホテル		
【参加人数】	60名	（内訳）受講者	海外 32名（16カ国）
		講師	海外 2名、国内 8名
		助手等	国内 18名

6回目の開催となる、神戸国際消化器内視鏡ハンズオンセミナーでは、イギリス、香港、メキシコをはじめ、16カ国から32名の消化器内視鏡医を対象に、切除組織及び生体ブタを用いた内視鏡的粘膜下層剥離術の実技指導を行いました。

6月23日（金）の初日には、神戸ポートピアホテルにてイブニングセミナーを開催し、6名の講師による講義及びビデオケースプレゼンテーションが実施された。

講義タイトル：

SESSION 1 司会：豊永 高史（神戸大学医学部附属病院）

SPECIAL LECTURE

“The difference in Endoscopy between the East and West. How should we bridge this gap?”/Miguel Tanimoto（National Institute of Medical Sciences and Nutrition Salvador Zubiran）

SESSION 2 司会：道田 知樹（帝京大学ちば総合医療センター）、山口 直之（長崎大学病院）、鈴木 典子（St. Mark's Hospital）

VIDEO CASES LECTURES – DIDACTIC VIDEOS FROM THE EXPERTS

「ESOPHAGUS」/石田 司（神戸大学）、「STOMACH」/梅垣 英次（神戸大学）、「COLORECTUM」/町田 浩久（医療法人 弘仁会 まちだ胃腸病院）、「DUODENUM」/上堂 文也（地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター）、「FUTURE DIRECTIONS IN ENDOSCOPIC RESECTION TECHNIQUES」/森田 圭紀（神戸大学医学部附属病院）

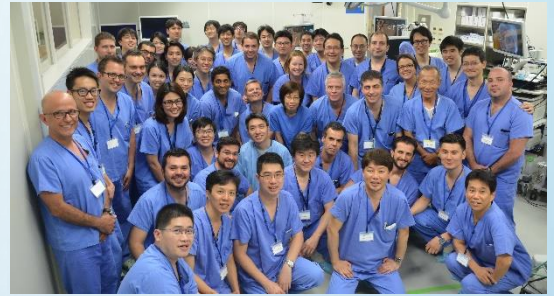
6月24日（土）及び6月25日（日）の2日間においては、神戸医療機器開発センターにて、初日は切除組織、2日目には生体ブタを用いた内視鏡的粘膜下層剥離術の実技指導を行った。トレーニングは、各参加者が講師による指導を一对一で受けられるよう、35分ずつのタイムテーブルが組まれて行われ、2日目においては初日とは別の講師の指導になるよう、グループ分けがされた。また、グループ分けされたベッド以外に、CO2レーザーを設置したベッドを用意し、胃/直腸におけるデモンストレーションを行った。

両日の昼食時にはランチョンセミナーを開催し、町田講師、豊永講師及び山口講師による講義が実施された。

講義タイトル：

6月24日（土） 座長：梅垣 英次（神戸大学）

“Tips of Upper ESD Using ITKnife2”/町田 浩久（医療法人 弘仁会 まちだ胃腸病院），“Importance of Bleeding Management during Upper and Lower”/豊永 高史（神戸大学医学部附属病院）



6月25日（日） 座長：森田 圭紀（神戸大学医学部附属病院）

“The Endoscopic Treatment Strategy for Superficial Esophageal Cancer”/山口 直之（長崎大学病院）

最終日のトレーニング終了後には、3日間にわたって開催されたセミナーのまとめとしてトレーニングサマリーが実施され、内視鏡の治療手技について質疑応答を含めた様々な意見交換がされた。

参加者の大半が、次回のセミナーもぜひ参加したいとの意向を示され、今回も非常に高い評価を頂いた。

国別セミナー受講者数 2017			
Country	Participation	Observation	Total
UK	6		6
Hong Kong	6		6
Mexico	3		3
Brazil	2	1	3
Costa Rica	2		2
Taiwan	2		2
Australia	1		1
Bulgaria	1		1
China	1		1
Colombia	1		1
Egypt	1		1
Mongolia	1		1
Portugal	1		1
Spain	1		1
Thailand	1		1
Korea		1	1
計16カ国	30	2	32

セミナー事務局

〒650-0017 神戸市中央区楠町7-5-1

神戸大学大学院医学研究科内科学講座消化器内科学分野
コースディレクター 森田 圭紀 秘書 田中 佐葉子